2018 年　4 月　16 日

助成事業実施報告書

団体名　NPO 法人集住グリーンネットワーク

代表者・役職名 氏名　事務局長　甲野毅

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書（精算報告書以外）は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真（2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します）を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

根川緑道さくらの保全活動

2. 実施団体の概要（創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで）

NPO 団体の発起人は公園などの都市計画の設計者であり、設計するだけでその後のまちづくりにかかわることができませんでした。そこで NPO 法人を立ち上げ、管理などのまちづくりに参加し、現在は環境教育活動、集合住宅などのみどりの維持管理に力をいれています。

3. プロジェクトの目的とその背景（※応募申請書に記載のものでも可）　250文字程度まで

サクラは地域のシンボルであり、市民に愛されていることが多い状況です。一方で植栽後長期間経過し、倒木などの危機に瀕している場合もあります。活動対象地である根川緑道のサクラは、植栽後約 50 年経過し、概要調査で 10～20％程度のサクラの樹勢が衰退している状況です。樹勢が衰退したサクラには、保全管理計画とそれに基づいた市民参加によるきめ細かな保全活動が求められています。本プロジェクトでは、市民による保全計画の策定と、市民にとり重労働で作業が困難であった保全活動を、より簡単な手法で実施するこが目的です。

4. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可）300文字程度まで

本プロジェクトは主に 2 つの実施内容からなります。第 1 に根川緑道の一部（樹木診断が終了している最上流からモノレール道路までの上流部の A ゾーン）における市民参加によるサクラの保全管理計画の策定です。第 2 が市民参加による簡単なサクラの土壌改良です。樹勢の劣化したサクラには、土壌改良が有効な手段となります。冬季にダブルスコップなどで根周辺部を掘り、土壌改良材などを投入することが一般的な工法となります。しかし市民には重労働であり、より簡易な手法が必要でした。そこで土壌を調査する検土杖器を用いて細い穴をあけ、土壌を抜き取り、そこに土壌改良材を投入する手法を実施しました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」（OUTPUT。実施回数や参加者数など）、「成果」（OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化）、「社会的な変化」（IMPUCT。事業が社会に与えた影響）などの『効果』 300文字程度まで

保全計画の策定では 4 月、5 月、6 月、7 月に開催し、合計 15 名の市民が、保全活動では、12 月、3 月に開催し、合計 10 名の市民が参加しました。前半の 4 回の活動により市民による緑道のサクラの保全計画が完成し、保全計画書は立川市に提出されました。市民主体によるさくらの保全計画の策定事例は、はじめての事例であり、それらの成果をまとめて、学会などで発表予定です。後半の 2 回の活動では、新手法による保全活動を実施することができ、高齢者や女性でも、大きな疲労感を伴うことなく、作業が出来ることが確認できました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など　300文字まで

後半の保全活動は、市の広報で参加者を募集したが、新規の参加者が少なかったです。地味な活動でありますが、社会的な意義を訴え、より多くの市民参加を促したいです。助成期間終了後も根川緑道における保全活動は、助成で購入した機器を活用し、継続して実践する予定です。また保全計画ができていない B ゾーンにおいても、今後は計画書の策定を目標に作業する予定です。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。	参考資料あり ・ 特になし